

# 平成24年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

## 広島市立亀崎中学校

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の実施日 平成24年4月17日（火）

### 3 調査方式

抽出調査・・・文部科学省が調査対象として抽出した学校において、調査を実施する。

希望利用による調査・・・文部科学省より問題等の提供を受け、各学校において、調査を実施する。

### 4 調査実施学校数（公立学校）等

区分	抽出調査実施校数（校）		調査実施者数（人）		
	国	県	国	県	学校
小学校第6学年	5,140	129	255,186	6,166	—
中学校第3学年	4,294	122	424,379	11,242	104

### 5 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）※理科はA・Bを一体的に出題

#### 主として知識に関する問題〔A問題〕

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

#### 主として活用に関する問題〔B問題〕

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

#### 児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

#### 学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 6 各教科の平均正答率

#### 【小学校】

国語						算数						理科		
A問題			B問題			A問題			B問題			理科		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
81.6	83.6	—	55.6	58.1	—	73.3	75.4	—	58.9	60.5	—	60.9	62.9	—

#### 【中学校】

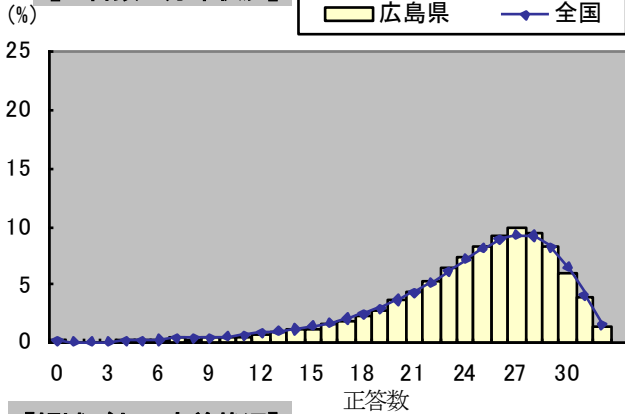
国語						数学						理科		
A問題			B問題			A問題			B問題			理科		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
75.1	75.3	73.1	63.3	63.6	69.0	62.1	62.4	67.6	49.3	49.8	52.9	51.0	50.2	44.7

## 7 各教科の調査結果の概要

### 【中学校国語】

#### 国語 A

##### 【正答数の分布状況】



##### 【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	87.7	88.6	<b>89.7</b>
書くこと	88.1	89.2	<b>90.2</b>
読むこと	65.4	64.7	<b>60.6</b>
言語事項	73.7	74.0	<b>71.3</b>

##### 【問題形式による定着状況】

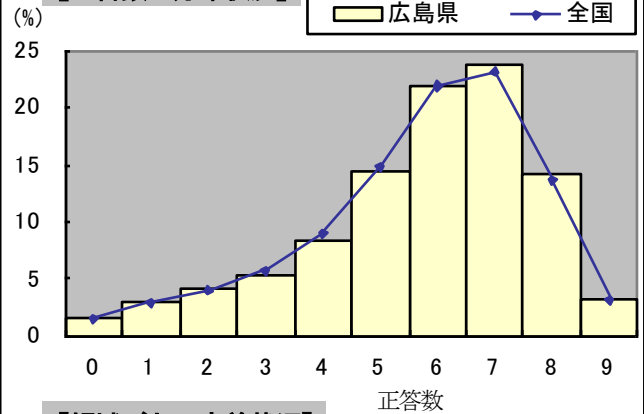
問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	76.1	76.1	<b>73.0</b>
短答式	74.1	74.6	<b>72.7</b>
記述式	—	—	—

#### 定着状況

- 領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」については各平均より高く、学習の成果が出ている。
- 問題形式「記述式」が高い正答率である。記述することに抵抗感なく学習できていると考えられる。

#### 国語 B

##### 【正答数の分布状況】



##### 【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	59.9	60.8	<b>76.7</b>
書くこと	57.4	58.5	<b>70.6</b>
読むこと	61.5	61.4	<b>62.3</b>
言語事項	—	—	—

##### 【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	67.7	67.5	<b>67.4</b>
短答式	84.3	84.0	<b>81.6</b>
記述式	49.0	50.4	<b>67.6</b>

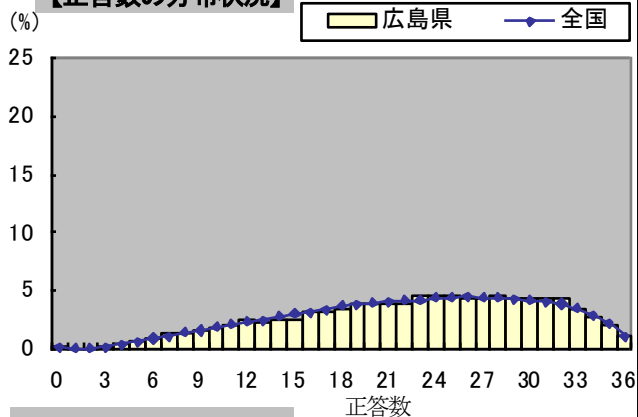
#### 課題

- 「わかっているだろう」と思われた問題の正答率が低い。確認を怠らず落ち着いて学習させたい。
- 「常識」の範囲にある部分が、まだ定着していないようである。繰り返し教える必要がある。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と式	67.5	67.3	<b>76.5</b>
図形	66.7	67.4	<b>71.1</b>
数量関係	52.1	52.6	<b>60.5</b>

【問題形式による定着状況】

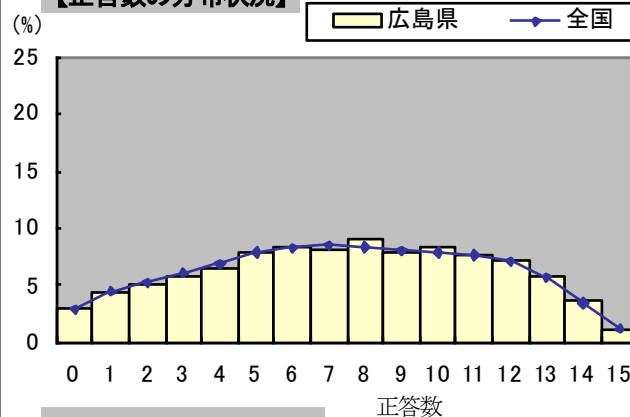
問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	59.7	59.9	<b>62.4</b>
短答式	65.5	66.0	<b>74.4</b>
記述式	—	—	—

定着状況

OA、Bともに全国や県の平均より高い正答率で、どの領域もおおむね定着していると思われる。特に「数と式」の領域の正答率が高い。  
 ○本校の過去の平均と比較すると、記述式の正答率がとても高くなっている。自分の考えを記述する力が伸びていると思われる。

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と式	40.9	41.9	<b>44.4</b>
図形	59.7	59.6	<b>61.6</b>
数量関係	39.8	40.6	<b>46.1</b>

【問題形式による定着状況】

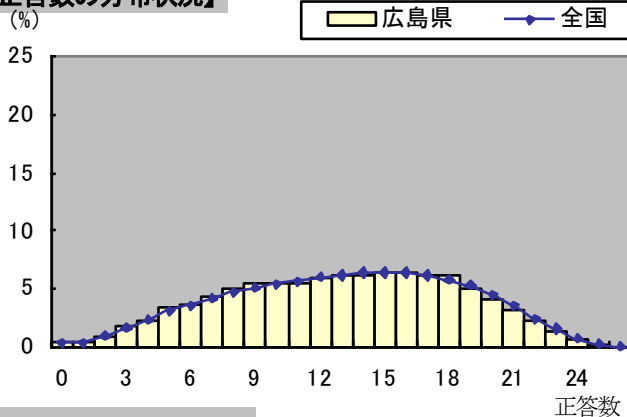
問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	58.4	58.2	<b>61.2</b>
短答式	65.4	65.6	<b>68.3</b>
記述式	34.0	34.9	<b>38.3</b>

課題

○領域別に見ると、「図形」領域の正答率が伸び悩んでいる。小学校での学習内容を復習したり、具体物を用いた指導で定着を高めていきたい。  
 ○授業やテストにおいて、記述式の問題を増やすことで、数学的な表現力を高めていきたい。

理科

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
物理的領域	45.9	44.4	<b>38.8</b>
科学的領域	56.9	56.6	<b>53.4</b>
生物的領域	50.7	50.0	<b>42.3</b>
地学的領域	52.0	51.6	<b>46.4</b>

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	60.3	59.9	<b>56.3</b>
短答式	49.0	47.8	<b>38.3</b>
記述式	32.1	31.3	<b>28.5</b>

定着状況

- 全体的に基本的な内容の定着が不足している。  
基礎的な知識の習得に努めさせたい。
- 問題文から内容を読みとり、説明する力が弱い。  
日常の授業において、生徒の関わりあいや意見発表の機会をふやしたい。

課題

- 授業やプリント、小テストにより、基本的な内容の定着を繰り返し行っていきたい。
- 授業において、実験方法や手順を教科書から読みとり、まとめをグループで話し合う場面をより多く作ってきたい。